

## 大字

たちいしだ  
立石田

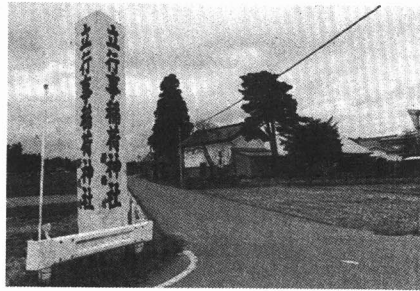
明治二十三年の町村制の実施により立石田村（立行事・梁田・大石目）の村名が大字名となった。立石田の名の由来不明。

## 立行事（立石田甲）

開村年代は不明であるが永正元年（一五〇四）以前には集落があり名は無く、立行事の村名は永正元年以降からと史実に見える。「大沼郡に伊豆権現祠があり

村名を定めず神主立行事という故に是を村名にして立行事村といふ」（異本塔寺長帳）

「此地に昔伊豆神社ありて立行事と云、社僧ありし故立行事村と云、寛文中今の文字とす。」（新編会津風土記・「海野氏代々記文書」）  
「山口佐幸氏蔵」



## 金山（現 立行事7261737）

上金山と下金山に分けられ、昔村の西北の地にマンガン鉱が出る話になり試掘したが量が少なく中止となった、この地は土地が肥沃で作物の収穫が多く、村の人達は「米びつ」と云っておったところから、金山と名付けられたと云われている。

上川原（現 立行事152187）

前川原・下川原（現 立行事802810）

上川原・前川原・下川原の三カ所に分かれている。佐賀瀬川は川底が高く長尾台地を迂回その肘に当る外側を度々の洪水で堤防が決壊され田は河原になってしまったため村人は「川原田」といつて、川上から、上川原・前川原・下川原と名付けられた。

村北甲（現 立行事740743）

村の北側に位置し、立行事分では一番平らな大きい土地で柳津街道にも近く便利な土地で集落北に位置するので「村北」と名付けられたと云われている。

弁財天（現 立行事761766）

村の北はずれに弁財天様が祀られてあったので、その近くを「弁財天」と名付けられたと云われているが、天文五年（一五三六）「白髭の水」と名付けられた大洪水により流失、堂跡のみ残っていたが耕地整理により整地され現況は堂跡もない。

○堂旧跡

弁財天ノ堂跡、村ヨリ北一〇間去テ有リ、勸請之年号並ニ堂何レノ頃ヨリ怠願スト云コト不詳、堂地東西十八間南北三間ニシテ杉有リ（寛文五年高田組郷村「萬改帳」・海野氏代々記・奥州会津新鶴村誌）